第五百九號目次

◎奉祝微言

◎社說
勤儉貯蓄の財政
板垣伯の社會改良論
慶婦會設立

◎亞米利加だより
米國事情（脫鐘よ夜鳴るべからず）の原作者（米國の兵卒）……（巖井鶴村）

◎雜錄
海舟先生高談……（副島八十六）
三縫すゝめ……（青柳有美）

◎講義
粧飾論一斑（下）……（石川靜淵）

◎文藝
茶禮法則

◎家庭
居候そだちの迷惑
日に青葉
官人惡品行の風評
貝人の風聞につきて

◎明評
官私二大女學校卒業式批評（若菜の子）（原田十
青の玄武門破り演劇○市川染五郎と市村家橘（
「青年の福音」

◎寄書
教育の普及は國家の大患なり……（小川桃花）

◎隨感
樂しき天地（やせたる我（偏狹の趣味（開化
無宗教の宗教（宗教改革

◎時事
御慶事以下數項

女學雜誌去四月分は都合により休刊し、今回發行の號をもて五月分とす。但し四月休刊の分にかはるべきものは、追ゝ特に出版したきものと期し居れり、右陳謝す。

●女學雜誌定價表●

前金	
壹册定價	拾錢
半年分定價	壹圓拾錢
一年分定價	貳圓
（內國無郵稅）	

◎代金は總て前金にて御注文ありたし年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送すると可有之事

●但し其節は總て一册十錢の割にて計算し追て請求可致事是れ甚に不本意乍ら計算の煩はしき不得止左樣仕候間かねて御承知置被下度候

廣告料		
一行（廿二字詰）一回		前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

送金　送金は東京巣鴨郵便局に宛て小爲替にせられたし（郵便切手にて送らるゝ人は總べて一割增にて計算せられたし

明治三十三年五月十日印刷
明治三十三年五月十日發行
發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　石川保市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
（電話番町十九番）

紫の舍公告

余さきに池袋清風大人に就きて敷島の道に入りそめしより、おぼつかなくも、たどり來りしを茲に數年、やゝ諸家の說を聞きつゝも、殊に香川翁の高見に推服する所あり。爾來步一步、ますく前途の杳茫として遼遠なるに驚きぬ。故にもとより敢て自ら得たる所ありしと云ふにあらず。然りと雖も晩近人心のいよく浮華に流れて、誠實すくなく、詩人の盛名をてらいて放逸なるに驚ろかすんばあらず。是れ即ち有志者と同もに、詩美神の名に於て、慨すべきの至りにあらずや。故に玆に同好の士女諸子と共に、社を結び、相共に研鑽して、斯道の機微を明らめ、あはせて詩美神の祭壇に跪きて、心より誠實の牲をさゝげんとを期す。是を以て、先進者には指導せられ、後進者とは共に相提携して、道に進まんとす。是れ本會の要旨なり。豈別に他意ありさせんや。

寄稿者は、左の條件を知了せられたし、

一　元と餘暇を偸みて從事するものなるが故に返稿は事情の許す限りに於て速かなるべきと

二　作作と認めしものは之を女學雜誌誌上に掲載して同好の人に割愛すべきと

三　返稿の爲に、相當の郵券を送附せられ度と但し前述せしが如き旨趣なる故に敢て期定の報酬を要せず、友誼の爲とては、賜るも可なり、賜わらざるも亦可なり。

東京駒込郵便區、巣鴨村庚申塚
紫の舍あるじ　湯谷紫苑

おもふさち袖ふりはへてむさしのゝ
むかしのゆかりいてて見ましや

奉祝微言

わが皇み代しろしめしてより三十又三年あめが下日に夜にいちじるく進みたるは民のさち此の上なきとながら夫は陛下がやみなきをん物思ひの結果にて大凡そ此の年ごろ是と云いて限りなき御慶こびのふしはあらざりけん民は子の如くなつきまつるにつけてたゞ〳〵宸襟をなやましまつるとの増し加はりける特り此度の御事ぞいかに御心たのしく御思ひ満ちたりけん維新このかた斯る御慶事は初めての御事とそを仰ぎ見たてまつるとのいかにうれしきぞや民々われわれの御いはひは申上るまでもなしあな感謝すべき哉

吾皇　吾皇の御一家　萬々歳とて只管らにことほぎまつる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第五百九號

明治三十三年五月二十四日發兌

社説

儉約貯畜の經濟

●松方伯は、地方官會議の席上に於て、井上伯は、到る所の諸集會に於て、伊藤侯は、福岡の演説會に於て、宛がら言ひ合せた如く『儉約貯畜』の説法を爲られた。目下の經濟難を救ふには、殆んど此他に一策もなきかの如くに主張せられた。

●無論、今の人々は奢り過ぎて居る。奢りと云へば既に度に過ぎたとであるが、其の過ぎた上にも尙ほ過ぎて居るので、勿論、儉約貯畜の説法に不同意はない。然し、今の時機に於て、あの人々から斯る説法を聞くとは、太はだ感服せぬとである。またあの人々は、コンナ事を言ふべき資格が無いので、よし又あるとしても、今に際して初めて斯るとを言はるるのは、少こし間違つて居ると考がえる。

●一躰、此の問題に關して物思ふ時は、直ぐと、支那人の事を思ひ出すが、支那人は如何にも畏るべく、敬まふべき習慣をもつて居る。彼等は衆の誤解する如く、ケチな人種ではない。もし奢と云ふ言葉を通常の意味に用いて言へば、彼等は世界第一の奢を爲すもので、中々西洋人どころの比ではない、其の衣服、其の食物、其の家屋、其の身のまはりに關しては、もし「尤とも多く錢を費やす國民は何人であるか」と問はば、無論、支那人の中に一番多くあるのである。我國の人は、支那の勞働者や、出稼人など斗りを見て、彼等全躰を甚はだ卑吝な國民の如くに思つて居らるるは甚はだしひ誤解である。斯樣に彼等は豐富なる生計を送り、思ふ存分の奢りを爲すものであるが、其の奢るには奢ることの出來る丈の基本があつて而して後ち應揚として自から奉ずるのであるから、決して無理と云ふことをせぬ彼等が如何に奢るとも、其奢りは身代

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

に相應であるから、眞との意味に於て申せば、寧ろ奢るとは言へぬ。身代の進歩、生計の發達に準じて、もと當然適應の事を爲て居るのである。

●支那人は、大丈夫なる基本を得なければ、容易に氣をゆるさぬ、少々の身代では中々安心は爲ない、一時の相場や、不時のもふけなどがあつたからとて、夫で直ちに生計をあげるなどの事は決して爲ぬ。左れば彼等が所云ゆる「紳士」となつて、最早安心して奢るとの出來る身分となれば、眞に安んじて樂にして居ても差支へないのである。夫故、后進、后輩、新家、新人など云ふ、未だ基本の無い族は、此の富家先人の奢りを見て、假令ひ羨ましくは思つても、妄りに眞似ことはせぬ、十分の貯蓄が出來、確乎たる基本が積まれねば、苟くも之に倣ふとはせぬ。寧ろ速やかに其の地位に達したいと思へばこそ、孜々として勉強し、非常の勤儉を爲すので、ソコが即ち我國人などに見られて甚だケチであるかの如く思はるる所ろである。

●臺灣などに來て居る支那人は、支那人中身代の小さなものである、況してや、其中の最下等で、苦力と謂はるるほどの支那人は、申さば、日本の立ン坊の如きものである。夫でさへ、一万圓を貯蓄して初めて一商店を開かんと理想し、夫迄は、家もなく、女房もなく、日に四五錢の生計費で、只但働らいて斗り居るのである、然るに、日本の主府たる東京に於ては、一万圓を貰へば即ち男爵で、華族の身代が一万圓である。一万圓あれば、殿様、姫様と云はれて、馬車に乗らねばならぬのである

●尤とも、馬車に乗るのが悪るいのでもなく、亦、決して奢りとも言はぬ。然し、馬の四足を借りて差支へない程に身が重くならぬうちは、二本の足で濟ますが善いのである。奢りが悪るいとは言はぬ。但だ、度に適した奢りでなければならぬと申すのである。

●夫故、錢を消耗品に使かふと言つて無暗に攻擊する人があるが、消耗品に使はふとも、可云ゆる不製産的費用に使はふとも、夫で不都合だとは思はぬ。消耗品も、不製産物も皆な人の快樂に必要なので、其快樂が大いに製産の基ひとなるので、決して無益ではない、よし他人が見て無益であらふとも、其人には有益であるから、何もソンナ餘計な心配には及ばぬ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ことである。ランプ亡國論、輸入超過亡國論などは、吾輩の感服せぬ所ろである。

◉人間の世に存するは、實理、實物、實用ばかりの爲ではない。其の情感を滿足し、其の趣味に悅樂し、氣品を高く、理想を美くしくせねば、生きて甲斐なきことである。左れば、只だ生きる斗りでなく、善く生き、十分に生き、麗はしく生きねばならぬ。之が爲めに消耗し、之が爲に所云ゆる不製產的使用を豐かにすることは、俗人の無用とする所ろで、紳士淑女の有用とする所ろである。文明、未開化の別は此に岐れるのである。

◉故に、吾輩は、輸入品超過の表を見て驚ろきもせぬ。其の超過せる費目が、主に奢りの品であるからと言つて、一槪に攻擊もせぬのである。たゞ、我同胞が、適應の奢りを爲すやうに、即わち奢りを爲し得べき度に於て彌よ多く奢りを爲すやうに、奢ることの出來るほどに能く進步するやうにと希望して居る。吾輩は、寧ろ其の奢りを攻擊せぬ。反つて其の奢りが確乎たる基礎の上より發して、十分なる不安心なき奢りであらんことを望むのである。

◉然るに、當今の奢りは、奢りにあらずして、寧ろヤマである、即わち吾が樂しみにあらずして、一種の餌である。鰕をもつて鯛を釣らんとする時の餌である。其の多くの奢りは、歡喜悅樂しての奢りにあらずして、內心ヒヤ〳〵しながら只だ外面を飾るのである。即わち使ふのではない、元手にするのである。消耗ではない、看板である。然し夫は賞めた話しではないので、一種の虛僞である。

◉此の虛僞の奢りの外に、今一つの奢りと云ふは、餘り早く滿足して、不時僥倖の富を万代つゞくかの如くに思ふヤニッコイ空賴みから生ずる奢りである。之が、支那人に尤とも少なくして、日本人に尤とも多いのであるが、取わけ、今代の商人、名士、上流の仲間などに、一般普ねく此の風の行わるるは何故である乎。此に至つて、吾輩は寧ろ、伊藤、井上、松方の諸氏に責を問はねばならぬのである。

◉元來、明治政府の仕事の仕方は、大底、山師仕事である。決して、遠大なる、確實なる經綸から出ては居らぬ。財政の事より、兵備擴張の事、敎育の事、殖產興業の事、何れも功を遠大に期するの仕方では無い。撿定の立て方がいつも目先

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

の計算で、偶まに僥倖を得れば狂喜して之を恃みとして居る。近頃に於て、尤とも甚はだしきは、日清戦争で、其の戦争のあとの軍備擴張、事業擴張などは、皆な確乎たる長計から出たものではない、言わばやりくり算段である。其の上維新の大業半ばだに成就せぬ時に、先づ新華族を連りに作つて、人をして早く奢る氣風を作らせたものは誰である乎、投機の山師共を盛んに誘導して、株屋連を引立て、惣べての事業を、性急なる成功に設計がしめる氣風を作つたものは、誰である乎。殖産興業に自活自勉の英氣を吹入れず、反つて官に委頼し、疎薄なる設計に委頼する氣風を起して、真正の殖産家を傷害したるものは、誰である乎。伊藤、井上、松方の三氏は主として、其の責を負ねばならぬのである。今の日本知名の連中が分不相應の奢りを為し、僥倖に頼る奢りを為し、規模狭小なる奢りを為すやうに至つたる最大元因を詮ずれば、遂に三氏が自分達に責を引ねばならぬのである。然るに、家に數百万円を貯わへ乍ら、容易に人に義捐せぬ所ろが倹約であるかの如くに見せ、茶室に數寄をこらし、之に數千円を投ずるをは惜しみもせずして、僅かに會食の皿を減じ、人力車に乗るとなどをして、夫で奢りを止めたる如く見せ、一夜醜業婦に數百金を投じ、到る處に、放埓邪行の先導を為し乍ら、消耗品を減ぜよと説くなどは、殆んど沙汰の限りで、志あるものから見れば、正氣とは思はれぬのである。夫も、青年辯士の演説か、一時の激勵家が慷慨するならば、又夫丈の價値もあるが、苟くも、大局に眼を注いて、責を一身に引ねばならぬ國務大臣相當の、人物が、かゝる、不都合な議論を為し、夫をまた謹聴して居るものがあるなどとは、實に驚ろくべきとである。

◉繰返して言ふが、人は奢るのが悪いのではない、過度に奢り、早く奢るのが悪るいのであるが、此の悪るい流行は、今の上流からハヤラセタ氣風に淵源して居る。もし政府の事業の仕方が、着實で、堅固で、人を採るにも、人を擧るにも經綸にも、設計にも、賞勵にも、皆な此のヂミな、眞面目な方針によつたならば、自然に此氣風が一般に行われるのである。最近の事は最早言ふに足らぬ。これからでも、翻然として前非を悔ひ、先づ此の根本から方針を一變せれば、夫で宜しいのである、區々たる演説説法などはするに及ばぬ。其

の演說や、說法で、忽まちの間だに流行を一變させよふなどと思ふソノ心持が既に間違つて居るのである。今の惡結果は長い間の過まちから來たのであるから、之を改ためて救ふのを亦長い間の辛捧苦勞が要るものであると思はねばならぬ。夫でこそ眞とに機一變して善に向つたのである。苟くも然らずして、突作に今の困難を救はふなどとすれば、之が爲めに更に第二の困難を他日に遺す斗りて、いつ迄も〳〵同じ事である。大丈夫、過まちなきにあらず、過まてば、チット忍んで其過まちの罰を受るが宜しひ。其の氣性が即わち禍を根本から一轉させる土臺となるのである。

◉今更ら、俄かに儉約演說をして、人を驚ろかせ、反つて益々景氣を損すると云ふは、何の事か。實に分らぬ。凡そ、是非、儉約をせねばならぬ程の時には、儉約々々とは言わぬものである。言へば、反つて儉約は出來ぬ、儉約を演說するのは、人氣が熾んで、狂氣じみた突飛なとをする場合に於て言ふべきである、實際、儉約をせねばならぬ時には、儉約々々と云ふ消極的の度胸では迚も出來ぬ、斷然興奮して、一大事を爲さふとする英氣が熾んになつて、夫で初めて儉約が出來るのである。夫故、あの方々が折角演說でも仕て見やうと思はれるならば、老後の思出に、猛烈な遊說をして、國民の心を區々たる小安心に泥ましめず、盛んに經綸して、大いに世界的事業を爲せよと言つて聞かせるか方が、反つて實地には儉約が行われるであり升ふ。スボミかけたシヾミ貝の殼をつつく樣にして、彌よ金着の口を引〆させると云ふとは、決して今の時機に於ける得策ではないのです。

板垣伯の社會改良

一徹にして正直なる板垣伯に望む所ろのものは、其の政治談を聞かんとするにあらざりき。世もし純理崇論の宣傳を要として、只だ偏えに演說講話を生命と爲すべき時節に於ては、伯の口より哲學らしき政治論を聞くとも亦た無益にはあらざりし。左れど、其の時代は既に遠く過去の機事となれり。今にして初めて板垣伯本來の面目を觀、將に其の天禀たる社會改良談を聞かんとするに際しては、伯たるもの、初め餘りに煩瑣末節の小細目に拘泥せず、直ちに社會腐敗の根抵に

向つて、急激なる改革刀を下さるべし。伯が一片の凝り性は、屢ば促して、餘り細密なる工夫に泥ましめんとす。坐禮改良、もしくは下女養成策の如きは、世に自から其人ありて存せんとす。伯の社會改良談なるものは今少し豪大ならずんばある可らず。

廢娼會設立

公娼の設置せらるるは、國家の恥辱たるのみならず、風化墮落の最悪根元なり、況んや、女學を起し、女德を高くし、男女間清潔の鼓吹に盡力せんと欲する者に至ては先づ公娼廢止の運動に向つて着手せずんばある可らざる也。然るに、世間久しく此理を忘れ、何故か斯の大問題に對して冷然たりしが、今や機節到來し、諸君大いに之に警醒せんとす、廢娼會の遂に設置せらるるを見る。實に欣躍の事とす。之より以往必らずや撓むなきの運動あらんことを熱望して止まざる也。

亞米利加だより

米國事情（二）

鷗村

●晩鐘今夜鳴るべからず（名詩）

（其作者ソルプ夫人）

予の滯在中、桑港の一大會堂に於て、太平洋岸婦人記者同盟會大會の開放せられたるあり、其會期二日に至りて、而して初日の夜は『カリフヲルニア女詩人會』と稱して同會の珍客ローズ、ハートウィック、ソルプ夫人の歡待會を開き、同時に、同地方にて多少詩作上の名譽あるものを、つどへたり、予フラ・夫人の招きに應じて、之に臨む。抑もソルプ夫人は彼有名なる一詩篇（Curfew must not Ring To-night（晩鐘今夜鳴るべからず）の作者なり。此詩頗る我邦人の間にも賞美せられ、曾て我雜誌上にも其翻譯の載られたることあり、されば、予は少からぬインテレストを以て、此會に臨みし譯なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

此詩の主旨は、或讀者の爲には再説を要せざるべけれども、なほ未聞の人々の爲に、聊か之を述ぶへし。

昔し英國のクロンウエルが下の鋭兵中にベシルァンダーウードと呼はれたる者ありけるが、或時軍法に觸れて晩鐘の響無常を告ぐると共に、敢へなく銃殺せらるべく定まりし時、此の男の妻にベーシーとなんいへる可憐多恨の女性あり、如何にもして、我夫を救はんものと、心付き千々に亂れ寺院に驅付けて、鐘を抱いて、晩鐘今夜鳴るべからずと泣咽ひ涙を呑んで、腸九廻し、悲嘆これ極まりたる際、天も一貞女の誠烈を感納ましましけん、統領クロンウエル來るに會し、鐵石の魂も、此女の歎きに碎けて、彼が夫の罪を宥し晩鐘遂に鳴らざりきといふ。詩は九章より成り、情頗る悲壯、英米人の之を賞歎する所以、偶然に非ず、名篇といふべし。予今、其作者、其名吟を誦するを聞いて、感慨尠からず。

會既に開かる、桑港市長フィラン氏、此同盟會長クレブス夫人のソルプ夫人を歡迎するの辭あり。其他音樂、詩吟など多かりし中に、ソルプ夫人は壇に立ちて、彼自作を吟ず、打見る四十餘才の容貌温厚、躰度秀雅なる、一婦人低聲、哀々の篇を朗誦して、章の末句Curfeu must not doに到りに更に低聲に、聽者の腸をつんざき、第五章よりの末句Curfew Shall not Doに至りて、聲やゝ高く、女性決死の、狀を示し第八章の末句Curfeu did not Doに至りて一陣の疾風、怪雲を拂ふの狀、末章の結句、クロンウエルの口より出でたるCurfeu shall not Doに至りて、天忽ち晴れ、歡聲地を動するの觀あり、音調、節に合して、聞く者の情頗る動く。

因に云ふソルプ夫人は、目下カリフオルニア州の南部に靜養中なりとぞ。

◎米國の兵士

また曾て屢ば、米國諸州の義勇隊が、マニラより歸國するに會し、特に曩にもいへるが如くに、カリフオルニア州義勇隊の歸國を迎へて、桑港市、狂沸して、之を歡迎したるを見たり、就ては米國の兵士とは如何なるものかを、畧ぼ承知しぬ。

文明國の兵隊中にて、恐らく米國の如くに、外見の不規律なるものはあらじ、彼の歸國兵等、既に上陸し、隊伍を組み横列をなして、市街をねり行くに、銃口には、花束を挿し、頸より肩より、綠葉の飾を纏ひ、而して、其服裝といへば、澁色の垢じみたるに、鼠色のメリケン帽子、肩より袋を懸け、背には、マニラ、日本等にて買ひ求めたる竹の杖なんどを負ひ、腰の周圍には、怪しげなる、ブリキ鑵、水筒などを下げたるなンど、凡ての樣子、予等の目には軍夫としか見えず。また列と列との間には、男女小兒が亂れ入り、しかも列中に混じて、情人の手にすがりたる女、見物人中より飛び出して、兵士將校と握手する等、甚だしきは接吻する女などありて、奇觀一方ならず、厳めしき大隊を見るに馴れたる、予等には不思議といふの外なし。

これは義勇隊なれば、亂雜なる服の多きは當然なれども、常備兵に至りても、格別の變りはなし、風采などは極めて質朴にして、帶劍すること無し、往々街上に、女の手を執りて散歩するものを見かけ、戰爭に赴くさへ、將校の輩は、妻女を携ふるもの多く、平素の鬪練にも、妻、娘、情人等、來りて之を見、了れば共に上車し、其後はまた例によりて舞蹈するなど、日本人の考へも及ばぬ程に散漫たる狀態なり。

されば米國の兵は、戰鬪力に乏しきかといへば、なかなかさには非らず、案外に鋭利なる由、國民の體力一般に强壯なるが上に、二人行けば、自から步調を揃へる習慣あり、且つ普通、射撃の法を、心得たるもの多ければ、兵士と改めて訓練する暇は少ければ、新募のものとても、其當日より役に就かしめ難きに非ず、殊に米國兵の、射撃に妙を得たるは、小兒の玩弄銃にても、小雀位は擊つを得べく、鐵砲ピストルの類は、普通の金物屋にて買捌くほどに、此術を發達したる國柄とて、當然の事なりといふべし。

元來常備隊の寡少なるを誇りとし、モンロー主義によりて、他國に干戈を混ゆること無きを多年の國態としたる米國なれば、國民は一般に兵士に重きを置かず、其國是は、商權を以て、天下を制せんとして、敢て刄に衂ることを欲せざれば、兵士をして、上に權力を持たしめず、驕ること勿からしむ。これは共和國の國是として甚だ智巧なるものといふべく、ワシントン等初代偉人の遺法、實に敬歎に堪へず。若し夫れ共和

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

政躰の國に於て、武權盛んなることあらば、其の國、此の政躰を保つこと能はず、治績紛亂せざらんと欲するも（永く）得ず、殷鑑既に遠きに非ず、實證を佛國に於て見る。佛國の共和政府、終歳、靜時なく、宰相、屢ば位を變へ、事變多く起る所以のものは、武人の跋扈するものあればなり。米國も此頃帝國主義などに心碎して、從つて武人の權を附與することとならば、共和政府の前途想ふべきのみ、然れども予は度量廣濶にして、實權實力を重んずる米人が、平時は彼等にとりて、無用の長物たる兵士を養ふに、多くの金員を費して、猶ほ且つ、これをして跋扈せしむるの愚をなさざるべきを信ず。

◎金門公園

（小兒遊戲場）

米國民が、兵營を飾るに勞せずして、公園を建つるに、力を用ゐるの美事は、吾人の賞歎する所なり、熱鬧なる市街の住民の爲に、靜かなる休息の地を與へ、景色に乏しき地に、景色を配する、貧富貴賤共に凡ての誘惑より離れて（制度として誘惑物を遠く、夜中男女の此の處に來りて密會するが如きは、制度の罪に非ず。淺草公園に醜窟其他の誘惑物を置くの比にあらず。）目と心とを喜ばしむるの良法は羨望に堪へず、桑港の金門公園の如きは、其一にして彼市民之を誇りとして、多額の金を投じて、之を修飾し、博物館、植物館、音樂場、動物園などの設けあり、偉人名士の銅像の散在せるありて風景を飾り、衆庶自由に之を樂むことを得。中にも予の尤も感服したるは、小兒遊戲場の設備なりとす。

此遊戲場には、ブランコ、山羊又犬の曳く小車、メリーゴウウンドと稱して、小兒の跨るに適したる、數十の木馬を配置したる楕圓形臺を、滊力にて廻轉するもの等あり、僅少の價にて、之を樂むとを得、凡て危險の虞無きやう備はりたれば、市民の小兒等、父母または子守等に連れられて、遊ひに來るもの多し。かゝる設備は、我邦の公園地にも是非とも欠くべからざるものにして、殊に東京の如き、小兒の遊歩場に乏しき地には、分けて、之を要す、幼稚園の設けは、小兒をして、誘惑に遠かり、危險の患なき、場處にて、自由に樂しく遊ばしむるの主旨なるに、今日にてはあまり、理屈と形式とに過

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ぎ、害あるも利無きものとなれり、眞に兒童を愛して之を敎育するの眞法を思はんものは、警醒一番、其元に歸り、天下有志と共に諸方の公園地は勿論、市街處々に一區を劃して、盛に小兒の爲めに遊步場を備ふべきなり。

桑港事情、甚だ長びきたるが、次回より始めてシカゴ以西の地に入るべし、鴎村昨九月中旬、太平洋岸を去り、四日の旅、二千哩の路、漠々たる原野砂漠を横ぎりて、ミシガン湖畔の月に感ず。

雜録

海舟先生高談

（故海舟餘波 禁轉載）

明治卅年二月十八日初めて海舟先生を訪ふの記（副島八十六氏日記中ノ一節）

赤坂氷川町勝伯邸に到り、玄關先に立ちて、賴マウ、一聲寂として應へなし、賴マウ、二聲、尙然り、更に一段聲を張りあげて、賴マウ、案內マウ、三聲、予が音聲强かりけむ、奥の方にて「どふれ」の應答と共に、人の足をと聞取

し中に、足音は段々に近くなり、やがて玄關の内より障子引きあけ、しとやかなる擧動して、我を迎ふる婦にあひぬ。予則ち刺を差出して老伯に謁せんことを求めたり。彼女、奥に入り又出來り、主人の意を傳て曰ふ、目下風邪の爲め打ふし居れば、更に他日、お目にかゝることに致すべしと。予は語を勵まして曰ふ、予は日ならずして南洋に向はんとするもの、素より生還を期せず、且つ勝伯には已に御高年のことにもあれば、他日の拜顏を得んとは到底望むべき限りにあらず、是非とも只今高風に接したきものなり、再たび此の意を致されよと、彼女うべないて内に入りしが、暫しにて出で來り、老伯承諾の旨を漏らす、予尙ほ佇立すること數分にして、他の女に導びかれて部屋を過ぎ、廊下を傳ひ、更にまた座敷をぬけ、遂に最とも奥まりたる一小室に入る。これ勝伯の寢室なり。床の間もなければ、花いけもなく、之ぞと云ふ修飾は一つも施こしあらず、僅かに二三軸の古ぼけたる掛物のかゝるを見るのみ、室の一隅には、本箱、机、茶棚など、處せまき迄に据えつけられ、書籍、書狀、綴物、雜然堆を爲して取亂しあり。伯は、此間に、窓を背にして、極疎末なるかいまき、ふとん

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

にくるまり、敷布團の上に端然と坐して、今しも侍婢の案内につれて入り來りし予を熟視し、氣輕く口を開いて言はるゝ樣、

サア〳〵、ズット、コッチへお出で、此節は風を引いて居るものだから、この通りねて居るよ。一體、お前は何處の人だい。ウン、そうか、そして今度何處へゆくと云ふんだい。アーそうかい、なんしにゆくんだい。なる程、ハヽア、さうか。そりやあ、どふも、いゝ考へだ。近頃いゝ思ひ付きだ。お前の樣な若い血氣燃んなものが、やらなけりや、誰もやるものはありやしないよ。どふして、それを思ひ立こたい、フヽン、お江戸に、七年といるかい、なんでも人間は苦勞しなくちや、いけないよ。ちつとや、そつとの苦勞じや、だめだよ。そして失敗をしなくちや、いみないよ、失敗もしない樣な人間はから何の役にも立ちやしないよ。何遍も何遍も何遍も、やりそこなつて、しくぢつて、だん〳〵と魂をねりあげて、きたえあげて、いろ〳〵の場を踏んでこなくちや、物の道理が分らないよ。苦勞を何遍としたから、モウ大丈夫だなぞと氣をゆるしちや、何んにもならないよ。これから、いよ〳〵本眞劍に魂を練つて、かゝつて仕事にかゝるんだよ、本當の事だよ。

御覽な、今の政府のザマは、ありや、なんだい。何時まで立つても、ぐづ〳〵、まご〳〵してるジヤアないか、あれが順境に立つて、出來上つたからだよ。國民歡呼の聲の中に生れたからだよ。だもんだから、皆んなが安心して、油斷をしきつて居て、何一つ、事は運ばしないのだよ。人は逆境に立たなけりや、ほんものジヤないよ、をれなんぞは、五十年の間、逆境にばかり立ち通しだつたよ。おかげで、人生の呼吸は、充分に會得したよ。五十年の辛棒とは、どうだ、えらからふ。己でなくちや、誰だつて、どふして出來るものか。

話頭は次第々々に移りゆきて。談柄は益々廣くなりゆき、興味滾々として盡る所を知らざりき。此間茶は、出でぬ、上等の菓子は出でぬ、珈琲は出でぬ、予はガブ〳〵啜り、ムシヤ〳〵喫へり。

老伯は、健康の大切なると、眼を大局に放つの必要なると、日本の現時の狀態の頗ぶる悲しむべきと、支那人の長所の最も敬すべき者あるとなどを、種々なる實際問題を拉へ來り

て、或は自己七十有余年の經驗より、或は確實なる古人の言行より引證して、叮嚀に反覆に、温顏を以て、熱心を以て、誨ゆる如く、慰さむる如く、勵ます如く、誡しむる如く、うまず、たゆまず、滔々諄々、說去り說來りて、予をして愉々快々の情に堪へざらしむ。而して、伯に於て特に服すべき所のものは、其立論、其希望の何處迄も進歩的にして、世界の大勢に副ふて其步武を過またざるにあり、而も其言ふ所、俗を脫し、世に超え、名利の外に位し、殆んど神聖に近きものあり。繫々として人情の機微に觸れ、犖々として天地の至理を打つ。

會談はいよ〳〵多趣多味を加へ、佳興の揚る所、其際限ある可を知らざらんとし、非常の故障の生ずるにあらざるよりは、談柄は到底停止するの徵候だに見えざりき。

かくして凡そ二時間ばかりを經たる比、勝田孫彌氏來訪せらる、此人薩人にて南洲傳の著者なり。伯は予を紹介して且つ曰はるゝ樣、此は今度南洋へ行くんだよ、どふも考が面白いヮヤないか、内の中ばかりすつこんで居て、年びやく年中。くだらない小ぜり合ひばかりやつて居る奴なんどの氣が知れ

ないよ、人は何でも範圍を脫しなくちやいけないよ、眼を大局に注がなくちやいけないよ。この節はどふもいろんな奴がやつて來るよ、昨日も名のある政治家があひに來やがつて、やれ現政府がだふだの、大隈がだふだのと生意氣なことをたてつゞけにぬかしやがつたから、己はさん〳〵つぱら叱つてやつて、ぼいかへしたのよ。己はそいつに言つたとサ、大隈だから片足なくしても、どしんと座り込んでゐゝやつて居るのだ、貴樣なんかゝ足を片一方やられやうもんなら、ちきにくたばつて仕舞ふよ、大隈はあれでも中々えらいよ、お前なんぞが鯱立ちとなつても、かなやしないよ、そして松方だとか、大隈だとか、大勢で騷ぎ立てゝ、いぢめるなんか、何てんだいだい。あいつらはあゝやつて置いたつて、今にまいつちまうんだ。人間が百迄も生きているもんぢやなし、いゝかげんにしとくがいゝや。それよりか、世界の實行を御覽、なか〳〵すさまじいものだよ、うち〳〵の小ぜりあいなんかして、人生をむだにくらす奴の氣が知れないよ」トこう言つてやつたのだよ。そいつも、得心して歸つていつたよ、此節は、役人が大勢やつてくるよ、役人なども、餘程、迷つて居ると

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

見えるよ。さうだらふよ、今のあり様だもの。

伯は、勝田氏の發行する雑誌の賣行評判などにつき、細々と問ひたゞし、見込よしと聞いていたく、打喜こび、満足のおもゝちありき、彼此するうち、晝飯の配膳にあづかりぬ、牛肉のすひものもうまし、煮肴もうまし、芋のころ〳〵煮も亦うまし、伯は初め予に話されし言葉に違はず、飯は僅かに一椀なりき。

食后の談話は益々面白くなりぬ、伯は、海舟秘錄及び要用書類を持ち來らせ、其中より目立ちたる節々を撰びて讀みきかせ、或は又さま〳〵の解説を加へて、維新當時政黨の顛末を具さに語られぬ。そのうちには、未だ多く世人の知り得ざる事實あり、驚ろくべき秘密談あり。予は新たに様々の情狀を發見したり、伯曰く、世間に發表されてるのは、ホンノ、上つらの一部分だよ、まだ〳〵人の氣がつかない事實が隱れてるんだよ、然し己は別段悪かられるにも當らんし、またあまり褒められたくもないから、當分世間には知らさないつもりだよ。なにいゝとは人のせいにして置くのがいゝのサ。お蔭で侯爵になつてる人もあるんだから。

而して、明治三年僞造銀の消却に關して、大久保と交渉したる内部の事實をつぶさに陳べられ、實に意外の感ありき。

伯の人物評は最とも傾聽するに堪へたり。曰く、李鴻章、あいつは、中々ゑらい奴よ、丁度今年おれと同年だよ、七十五だよ、それであの度胸はだうだい。あんな小つぽけなことでも、日本までもやつて來たのだ。目の下を鐵砲でぶちぬかれても、蚊がくつた程にも感じて居ないよ。小供が何かいたづらをするんだ位にしか思つていないよ。たいていなもんなら、すぐ往生して仕舞ふよ、伊藤ナンドは、李鴻章は馬鹿だなんと言つてるけれども、どふして馬鹿どこの騒ぎじやないよ。伊藤サンの様に世界の大勢に通じているなんテ威張はしないよ。己は一度も李鴻章にあつたとはないが、中々ゑらい奴だとふだんから、思つているよ、今の日本の有様はどうだい、實にはづかしいとじやないか、李鴻章は笑つているだらふ。西郷なんかはとても、今の時世に立たしたら、治めていくとは出來ないよ。あの男は、議論なんかさしたつて、一寸も出來やしないよ、たゞ笑つてるよ。

江藤新平は、驚ろいた才物だよ、ビリ〳〵して居つて實にあ

ぶないよ。だもんだから、大久保の留守中に一撃見で、何でもかでも片つばしから、さばいて仕舞ふもんだから、仕舞には、大久保と中がえれたよ。そして、とふ〳〵あんな最后を遂げて仕舞つたよ、實に氣の毒なことをしたよ。

大隈は江藤の樣に才子だけれども、あんなに、あぶなつかしとはないよ、足を片一方なくしたんで、大分此せつは弱つてるやうだよ。

分つてるんぢや大木だよ、然しあいつは中々づぼらで、責を自分に負はないよ。

副島の家には、時々いくかね、イヽエ、いかないと、あれはいくつになつたネ、ナニ七十だと、そんなにやなるまい、アヽそうか、成程七十だな、あれは學者だよ、大久保とは大仲馬があつたよ。この頃は老衰したやうだと、そうだろふよ、かはいそうに。

長州では木梨、あいつはゑらかつたよ。木戸なんかは、餘程落るね。然しあいつには、伊藤と云小才物が附いて居つたから表面は立派なもんだつたよ。伊藤もあの時は、中々骨を折つたよ。

品川はどうしてるネ。あいつは松陰を神樣のやうに奉まつつて居るが、己は左程のものとは思はんよ。なる程、松陰は學者で、壯士で、そして人の先鞭をつけて外國へ渡らふとした人だから、ゑらいにはゑらいサ。品川は一にも松陰、二にも松陰。一寸と困つてくると、おき松陰先生が、あゝ言つた、コウ言つたと、かつぎまはすよ、ありや、正直なんだからだよ。

長州人の欠點は、才があるけれども腹の強い所がないよ。どうも腰が弱いよ。薩州は才はないよ、みんなのろまだよ、けれども腹が据はつてるよ、氣性があると、余り事を急くくせがあつて困るよ、之ばかりに傷だよ。

土佐人も氣性はあるが、しかし器がどふもみんな小さいよ。一體板垣なんぞが政治がやれる男じやないよ、小さい奴よ。

太いよシヤア後藤だよ、あいつは馬鹿に圖太い奴だ。

大久保に就ては特に論ぜられざりき。たゞ折々流石の大久保でもナドの語ありしにより察するに、彼の偉物たりしとは、確かに認識し居られしものの如し。左れど西郷南洲とは大いに種類を異にするとを信じ居られし如し。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

話頭は更に轉じ、大は人生問題、天下の狀勢より、小は家事の困難、人心の冷熱に至るまで、あらゆる材料を題として批評し、論難し、縷述し、罵詈す、みな肯綮に中り、火を見、血を見るの懐ひあり。

幕府などでは、人に面會するなんどは中々八ヶ間敷かつたもんだよ、極々確かな手紙でもなくちや逢はなかつたもんだよ、それも表の間で、禮儀を正して、大相嚴格なものよ。むだ口なんか、一言だつてきかなかつたよ。初め此事を大相わるく言つて居た大久保も、自分が高位高官になると、書生で居た時の樣にやつていけなくなつたと見へて、やつはり仕舞には、應接を嚴しくして容易に人に逢はんやうになつたよ。それで己は大久保をひやかしてやつたことがあるよ。ナニ、門前拂ひや玄關拂ひは度々食つたのかい、世間一般大抵なものはそうするよ、古も今も一寸も變はらないのは己ばつかしだよ。己もこれから少し權式ぶろうかシラ、己の肩書きは中々立派だから子、權式ぶるには調寶だよ。アハヽ。

己は、この節は、初中、體がいけないよ、こんなに無暗に聲を出しチャ夜分また苦しむよ。副島はホントに惡るい人だよ、無理に强迫して、おれにコンナにしやべらすんだもの。

一書生あり、伯の固く辭まるるにも關はらず、强ひて面會を求むるにより、伯遂に之を許す。彼男、室に顔を出すや否や、伯大喝一聲叱して曰く、おれが病氣で困つてると云ふのに、客があつて込入つた話をしてると云ふのに聞入れないで、どふしてもあいたいナンテ、そんな剛情なやつがあるものか、氣を落付けて靜かにやらなけりや、とてもロクな人間になれないぞ。お前は何者だい、學生だと、そして何してるんだい、遊んでる、いけない奴だ、遊んでくらすと云ふ方があるもんか、紙屑ひろいでもしな、エー。

一語は一語より激しく、頭からガミ〳〵かみつかれたれば、彼男はたゞ平伏して何の言葉も出さゞりき。伯は吾等の方に向ひて、しきりにサキの話をつゞけらるる時、突如として彼は伯に言つて曰く、先生どふしたら死ぬのがいやでなくなるもんでシヤウと。伯。ナニ死にたい、イヤ死ぬのがいやだ、當り前だよ、だれかお前を殺そうとするといふものがあるの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

かい、無い、無いはづだ、だれが貴樣見たいな奴を殺すものがあるものか、貴樣、虱が居るだろふ、こゝに出して見な、御前につぶされるまで待つて居やしないよ、直ぐのこ〳〵はひ出して行くよ、それ御覽、つめのあか程の虫けらでも、命がほしいんだよ、まして萬物の靈長だよ、人間が自分で自分のいのちを殺すやつがあるものか、馬鹿な、ソウヂヤないか、どふだい。

伯はたゞ此の如く彼を誡しむるには止まらず、尙ほ彼を慰さめ、敎へ、親切をこめ、誠意を迸ばしらし、かみてふくめるやうに彼男を諭したりしかば、彼も大いに覺る所あるものゝ如くに見へたり。伯は語をつぎて、

お前は一躰いくつになるんだ、なに二十九だと、そんなつうたいして、よくはづかしくもない、已に伺ひにこられたもんだ。……今の奴は貴樣のやうにミンナ肺病だよ、これは氣性が足りないからだ、精神の發なひが足りないから病氣になるんだ、腹の据つた奴は、なりたいつて肺病なんかになられやしないよ（更に布演せらるゝと詳びらかなりき）。

最后に彼を戒むる處多かりし中に、左の語ありき、已の眼は貴樣なんかより余程大きいよ、だから已の眼には貴樣なんかはへーらチーヤ、シッカリシロイ。

やがて彼ははう〳〵の態にて逃がれゆきたり。伯はあとにて深くかゝる半狂人の多きを歎げき語られたり。

かの世田ケ谷豪德寺の謙道和尙の事に及ぶや、則はち曰く、

あいつはよくやつて來るよ、正月になつてからも、坊守が茶を飮んで居る話なんか書いて持つて來たよ。彼奴は初一念を通した丈が感心サ、學問は一寸ともないが、實地で道を悟つたのだ。あれで本が讀めて眼が高からふもんなら、大シタもんサ。然しそうすると、あゝやつて居られなくなるかも知れないよ。

伯の談話はこれにて盡しにあらず、尙ほ滋味津々たる一時間有餘の談話ありしと雖どもあまりくだ〳〵しければ、省く。

女學雜誌編者親しく關係する所の諸人に諸種の事狀を生じ延ひて其の編輯と出版とを遲延せしめたり、讀者希はくは恕せよ。惟ふに、遠からずして定期發行の期日に適はん哉。

三變むすめ

布美

男子三日見ずんば刮目して待つべく、又三日見ぬ間の櫻こそ仲々に變化多きものならむめれど、相知らざる束の間のうちに、著るしき前後のけぢめ出できて、大に人をして刮目せしむるもの、豈に獨り櫻と男子のみかは。變り易きはげに人みなの身の上なり、殊に女の身の上なりけり。一生の苦樂多くは他人に依る。氏なくして玉の輿にさへ、乘るものあるに、此る變化の人の女に伴ふは、別に怪しむにも足らぬ事ふりにて、大方の處女子が、たゞ辿り行くべき道筋ならんも、これが常の筋よ道よと思へば、猶ほ更に面白く又をかし。猫の眸が日の光に伸び縮みする如く、時と共に變り易く遷り易きもの、眞に乙女の身の上程なるはなし。昔の世には、花は櫻人は武士との美はしきモットーさへありと聞きつれど、女人の一代こそげに櫻の華やかにして雲を霞とまがふにも似たらんかな。忽ちにして榮ふること櫻の如く、忽ちにして散り衰ふること又櫻の如し。男子は如何に速かなりと稱へらるゝものも、その變化や凡て漸進なり、女人の如くしかく忽然たるものにあらず。一躍といはゞいへ、その一躍こそ仲々に容易ならぬ、骨折なんめる。

今より三四年前、われ奥州の山中より花のお江戸に迷ひ出で來りて、日を味氣なく暮らし居ける頃、一日のことなりき、或る友の勸むるまゝに誘はれて、山の手わたりの某しといふ女學校の參觀に出で向きしことありしが、そちこちと教場の彼れ是れ見回りつゝある間に、その出席生徒の數、たゞ僅に四五名にてもありたらんと思はれし一組ありけり。またそが中に、甚た勢ひよく、參觀人の入り來れるを見て取りてか殊に滿身の氣力をこゝに張りつめ、圍りに居並ぶ同級のものどもを尻目にかけんずらんほどに意氣捲きかへりて、切に質問の矢を教師に放ちつゝある一女生ありけり。その書は何にてやありたらん、能くわかねど、英書の組にて、『ブック、ウオーム Book-worm といふは何の事ですか……　そうすると日本でいへば……：マア本箱學者ッていふ樣な譯なんですな』など、問ひつ答へつしつ。見るからに齡も餘りに若き方にはあらで、何となく一ト癖ありげの面持ちして、圓く凹める眼光らせ、白く鋭き炯々たる眼光の、薄黑き　顏いろ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と相映じたる、途すがら若し無禮の男子などにも出遇ひなば、拳かたく立處に倒めて、二三人は容易にはり飛ばさん程の趣あり。さても其生國は何處なるにや。

卅一年も暮れかけたる十二月の卅日といふに、世はザワ〳〵と立ち騒ぎて、松飾りや海老などに壽祝ふ用意さへ繁く、足の歩み皆な何となく騒々しき折から、こゝのみは又格別にて、人々皆なうち沈みて涙にくれ、しめやかに相集りたるあり、こは自ら稱して「單税太郎」とまたの名せしガルストてふ宣敎師の葬儀を、神田靑年會館にて營めるなりける。この故人はわれに浸禮の聖典を授けしくれる難有き敎師にて、久しき間の交りなれば、早く朝まだきより出でゝ、此の日は特別の世話奔走などしつゝ、會衆の散ぜし後も。なほ後に居殘りて色々の周旋整理に盡力し居れば、これは故人の隣家に住へるさる洋人の傳道事業を助けて共に働く人にやあらん、まだ卅には三つ四つも不足なるべしと思はるゝ若人の、左の腕に喪章の黑紗纏ひし背廣の洋服つけたるが、その洋人なる夫婦と共に同じく後殘りして、讃美歌集の取り片づけなどに骨折り居たるあり、万事の擧動活潑にスマートにて、宣敎主義の學校出身の者とは、問はずして一見明かなるほどなり。思へばこの若人とは嘗て故人の宅に會食せしもあることにて、通譯などにも巧みなる方とか。かゝる後仕末の仲間のうちに、なほ一人の齡たけざる婦人あり、手織木綿の嚴丈なる衣つけて、我等の間に立ちまぢりながら、『この讃美歌は誰れがしのものよ、その讃美歌はそれがしに返へさゞるべからずなど、しきりに取りわけつゝ整へ居れるがあり、その薄く黑く褐色せる顏と、やゝ恐ろしきまでに凹るく凹める眼ざしに、鋭く白き光を蓄へたるとは、正しくかの山の手の女學校にて、勢ひ猛く一本槍學者の說を辯じ居りし女生なりける。今は卒業ともなりて、所謂バイブル、ウウマンとぞいふなる職に就き、かの洋人を助けて傳道の事に從ひ居るものにや。是に於て、彼女の一生は先づ一變せり。その髮の結び樣といッぱし矢張例の束髮とぞいふものなる。始め見し時より、年にあはせ老よりめきし顏と、この髮の形ちとのみは、げに昔も今も變らざりけり。

また、これも同じく神田なる靑年會館にありにしことにて昨年の夏少し前ごろなりしか、岡山孤兒院の幻燈音樂會の開

かれし時、多くの人々そちこちより群り集ひて、流石の大場所も、人間の鮨し作りて所狹きまでに覺えしが、二日目の夜、少しく遲くれがけに入り來りて、中ごろの椅子に腰かけたる一婦人あり。その眼ざしの白く銳く光りて、恐しきまでに圓ろく凹めると顏の色の例の如く黑く海嘯きとは、正しくかの葬儀に、前後の世話せしバイブル、ウウマンにて、もとの勢ひ猛きそれがし女學校の生徒なるを見わけしむれど、怪しやな、この夜は腰さへ眞直に据らず、ハンケチ片手に恥しげなる態度して下うち向ながら、ソコ／＼に、椅子のもとまで驅けつけつ。觀れば、何に驚きめされけん、白粉さへ薄く粧はせられて、身は昔と變る淡色の絹ごろも纒ひ居けり。而して、あゝ、その髮の形といッぱ大なる丸髷に、油の光つやゝかなるものなりけるぞをかし。かの簡略なる束髮と嚴丈なる手織木綿の衣とは、いづこに消えうせつらんか、我が手我が心の、我が戀ふ人に與へらるゝと共に、いづこの川流にかうち棄てられて、更に新たなる生涯に生れ變はりしにや。是に於てか、彼女の一生は再變して、今や人妻の身となりにし也。ほど經て又入り來り、さきなる婦人の後ろに近く坐を占めし一青年あり。やゝ怪みながら伺へば、こはかの葬儀の折、黑紗を左腕にまとひて、色々と周旋奔走せし人に違ひなく、この女とは、同じ洋人の下に共に／＼傳道に從事せる間柄なりしを。如何に男女は陰陽の異性にて、互に相引くものなりとはいへ、その一つにひッつき合ふことの仲々に迅速なるものかな。かの葬儀の日に、この二人が眞面目くさりて立ち並ぶを見しより、まだ半年にたらざるに、さても／＼お目出度ことなるかや。

又彼女は遂に三變せり。此年の四月の初めつかた、この婦人が出身せる山の手の女學校に卒業式ありけり。我れもまた行きて、其席に侍りしが、片隅の椅子に坐を取りて、胸襟廣くあけて、生れて三月ばかりなる嬰兒に乳合ませながらありしは、これぞかの幻燈音樂會に我を驚かせし新婦にて、さきには『本箱學者』の說に、參觀人の魂ひしぎくれんと力みたる女學生の、のちバイブル、ウウマンとなりたる、色あさ黑く鳶色にて、恐ろしきまで銳く白き光ある眼の、凹く凹めるを持てるなりける。その丸髷の大なると、おしろいをふりかけ居るとは、新婦の時に變らねども、何となく生氣のぬけてし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いだらなげに見ゆるさま、いと憐れになん口惜し。幻燈音樂會にて見し時には、まだ漸く蜜月を終りしほどなるべく、春の花の惠み豐かなる露に遇ひて、却て華やかなる色増しながら、所謂『雨に惱める海棠』の面持ちありしが、今は稍々風に荒されしほれし秋草の景色呈しつ。子を生むは、素より一日にてなる戀とは事かはりて、半年たゝぬに、出來得べきことにはあらねど、かく嬰兒抱きて之を守りする人の、あゝさま〴〵の道履み來りしよと思へば、おかしくも怪しき心地せらるゝものなり。桑田變じて海となり、蛤變して雀となると聞けど、こは女學生の變じてバイブル、ウツマンとなり、又變じて細君となり。また又變じて母となりけるなり。殘るは姑となり、墓の土となることのみなり。暫らくしてドヤ〴〵と洋服つけたる若き男子の一と群れ五六人なるが式場に入り來る。そのうちには、この婦人が夫なる人もありて、妻が坐せる前の椅子にと倚りぬ。その顔色の昔と變りて今は非常に青ざめて力なげなるは、何故ぞや。抑々何故ぞや。

評議

粧飾論一斑（下）

山形東根

（七）家庭は如何にして美はしかるべき乎

家庭の美はしかるべき方法は、之を廣義に解すれば、種々の方面より計らざるべからず、精神上、道德上、社交上、經濟上、幾多の要素充備せざれば家庭の美はしかるべき理なし。然れども斯に狹義に解して、唯、粧飾の點のみを議せんと欲す。粧飾上より家庭の美を計るに、敢て難事とは云ひ難し、先づ家族員をして身体及身邊を清潔ならしむべし相互の感情は大に融化せらるゝなり、室内を整理して秩序あらしめ、物品の配置其所を得、出入其宜に適ひ、各自の精神相一致するものなり。名家の揮毫せる額面、名匠の造れる置物、高尚なる書籍、凡て視聽に觸るゝ所にして美觀を呈せん乎、家庭は自ら美はしきを致すなり、吾人は室内の秩序整然として萬

端其宜に從ふ家庭にして未だ日常紛擾の絶へざるが如きを見ず、或は外美内醜にして頗る美飾を爲す悪魔の如き妖婦なきに非ず、妖婦は特に外面を飾ることを爲すものあり。而かも之れ特例にして全般を推すに足らず。

家庭を美はしからしむるの根本は、各自の家族員の精神をして美はしからしむるの外はあらじ。已に精神美なれば斯の爭論なく、紛擾なし、相互に力むる所は各自の幸福なり、便宜なり發達なり。室内亂雜たらんとするも得ず。若し夫れ家族員の精神上に一致なく互に反目する如き現象あらんか、善を盡し美を盡したる宮殿の如き宏壯の家屋に住し、美衣美食を供ふるも、家庭の美はしからんと望むべからず。而して此責任を負ひ此義務を履行するものは、世界を通じて凡て女子たるものゝ肩上にかゝる所、家庭の美醜の過半以上は婦人の側面より發起し來るものあるを知らざるべからず。

(八) 婦人の美感養成

男女を問はず苟も社會に生存する者は、審美の趣味なかるべからず。而かも特に婦人に於て美感を養成するの必要あるを知、美に關する觀念の乏しき婦人は最も下劣なる階級に屬する者なり。此故に審美的感情の發達を計り其方法を議するは家政學上緊要の問題たるを知るべし。

第一、建築の裝飾、園藝及び化粧の三者は、裝飾の重もなる者にして是等は婦人の美感によりて左右せらるゝ種類に屬す、其彩色、形式、位置、材料等、凡て美感によりて判斷し撰擇せらるべき者なり。

第二、婦人は先づ其身躰を健全にし其完美を期せざるべからず。人躰の美は最も高き美感を惹起す。夫の面色蒼白にして骨格尖起し胸部平坦にして背骨柱の彎曲せる如き、容貌美なりと雖も未だ賞すべからず、世上纖細にして蒼白なるを美貌の標準とし、人多く之に倣ふが故に遂に此の如き弊風を來せるなり、恰も煖室に於て花を育つるが如き從來の誤解は斷然として排斥せざるべからず。

近來女子敎育の道開けてより學生多くは智力の養成に偏し其躰育を怠り特に美育に至りては各學校各家庭の裝置殆んど見るに足るものなし、故に智力上の得識あるも身躰の秀質なく、德義漸く亂れて美感幼稚なり。男女兩性間の關係は身躰

見の致受力に起るもの最も強く、次は德義上の致受力に起り、最後に智力上の致受力に起るものとす、而して此三者は審美上の觀念趣味を有するによりて完成せらるべきものなり。圓滿にして優美なる形容は多數人の視線を引き、健康なる身体より起る活潑と好氣質とは制止すべからざる愛着を博するは天下の事實たり、誰か蒼白脆弱にして唯博識なりと云ふに懸念すべき、彼女は希臘語を談し日耳曼語に通じ、博學恐るべしとするも、體制に美質なく善良なる氣質なく、健全なる才智なく、音樂美術の趣味なくんば、何人か之を懸念すべき。

しえくすぴーあの言に言く、

人にして恋め自ら音樂の技を有せず又妙音の曲に感動せさる如きものは是れ謀反強奪、詭計を作すに適せんのみ斷じて斯かる人を信ずると勿れと、

然り躰格の美を發揮し、且つ美術の嗜好を多大にして、美感を養成するは婦人の最も力むべき點なり、學問を以て書籍を多讀するものとなし唯一智識を擴むるに汲々たる如き謬見も亦甚たしと云ふべし。

第三、婦人の美感は概して幼稚の境にあり、『一幅の繪畫に對して單に着色せられし絹素を有るのみなる人に起れ未だ繪畫を見さる者なり』とは繪畫鑑識上の一格言たり、而して多くの婦人は唯其絹素を見、彩色を撿せんとす、未だ其間に横たはる廣大なる觀念を看取せんとせず、建築の裝飾、室内の裝飾、化粧の方法亦然り且つ流行に走りて新奇を衒ふの弊あり、凡そ流行は其字の示す如く一時流行するものにして奈何なる物も容易に止まらず、見よ一旦廢風となりし流行に誰か眷戀たるものぞ、要するに流行美は淺薄にして基礎なく、即ち醜なるものなり、流行上の趣味は徒らに追ふべきものに非ず。

第四、美的趣味を起さんとせば先づ偏向、私利、我欲、邪念等を脱却するとを要す、眞善美の堂奧は無我無念にして不偏公平なる人、唯之を認識するとを得るものなり、偏向性あれば自ら好む所に偏して其好まざる所を排斥し、私欲の念あれば我が所有に屬せされば滿足せず、されど美なるものは其所在の範圍廣大なれば、大に美感を養成せんとせば到底狹隘なる區域に於て爲し得さる者なり。

第五、美を看取するの法は、先づ實物の利用、材料の價値等に着目せず、是等を脱却し去りて專ら其上に表はれたる想を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

も見ざるべからず、實物を度外視せざる者は審美眼の最も幼稚なる人と云ふべし。假令ば詩歌の美は其れに表はれたる詩想と句調とに存するにて、決して其れを書き載せたる紙片、印刷法、若しくは其書き手に存せざるは見易きとなり、音樂の美も樂器に存せず、若し之に存すとせば之を見るとを得る人のみ之を感じ得べき次第なり、音樂の美は樂器を見るよを得ざるも之を聽き得るものは看取し得るに非ずや、此の如き消息を指して、審美學上、脫實の法とは稱するなり。
以上は何人も美を見るに必要なる條件なり、之を力めて美術一般に對する着眼を怠るべからず。

春季洗足會の折

海舟先生の靈前にさゝぐ

空即是色と云ふ心をしかり

沙羅双樹の花いろ衣ぬきかへて
若葉凉しくなりにけるかな

文藝

茶禮和法則

茶室は雨露の洩れぬほど、食事は飢を凌ぐ程、火は湯の沸ほど、茶は程よく湯に點し、脾胃調和するを第一とし、掛物は聖賢知識の墨跡を看て誠道に進む事を願志とし、花は潔よく新たに咲たるを入て、天然の色香清空なるを己が心に移して、正直を感じ、點前の取扱をよく動靜して、拍子に拘らず、清水の流るゝが如く、只だ生れながらの呼吸と、体用和を鍛錬し、素直に爲せよ。又客も主の眞を受て己が誠心堅固に座せよ、假にも我と人と離るゝ事なからしむ。我と人と別に成りては、茶道にあらず。譬へば、一碗の茶をもて、人の飲掛を飲廻すを禮式とする意なれば、主客とも一和正直なるを以て道に進むとを念じ、衆生一所、六根清淨にして、世間相常住の執行あるを以て、眞の茶の湯と心得べし。

第一條

貴賤とも、己が身の分際を辨知して茶道を學び、風爐三居の左法、爐十品の規則、諸具の取扱傳事等、不殘數寄屋圍をはじめ、其外、路次庭等、又書院向飾附の事を不殘、又茶の會七式、其餘、催方等、何事によらず殘所なく習ひ無之ては、此道に入て熟學の人とは云ひがたし。譬ば、茶の湯は、花、茶道は實にて、實は熟すれば味ひ出ぬれども、實る時迄は風雨の障、又は虫の難にて損ずる事多し、熟するは十に一つ也、茶道もこの如くにて、熟する人甚稀なり、道を半ばにて捨るより、花には劣り、人には嫉笑はるゝ類多し。左すれば、茶道には入りがたきものと思ふべけれども、左にあらず、初より業躰内弟子の通、曲尺寸法居前稽古方端、釜の掛仕舞、座敷路次等掃除、爐風爐灰炭の心得能く學ぶ心の人は早く其深意を熟すべし。

第二條

濃茶の式は 本來會席有之方、定法なり、茶道の體義、節儉質素、規矩嚴重に器物も和漢新古の差別なく、其內眞行の品又は好形物取合すを肝要とする事習ひ多し。

第三條

薄茶の式は、本來口取菓子のみにて、會席等無之方、定法なり。茶道の禮節、五常人倫誠意の清談を習ひ學ぶ。事業ゆへ、器物も和漢新古を不撰、其內手輕き草の品を専用する事、習ひ多し。閑談にて時移らば、手輕湯漬位にて飢を凌がすとは制外なり。

第四條

着座運び付にも、體の備へ並に呼吸の考へ第一の事。

第五條

雜話有之間敷事

第六條

點茶の節、腰提物を禁ずる事。

第七條

手前の節、必らず十德又は半德をも可着事。但し半德は免許以上の事

第八條

濃茶始小習等稽古の節、客に成る人、羽織可脫事。

第九條

菓子盆、莨盆并に手爐等の取扱、規矩の通、可入念事。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第十條

水屋拵、點茶炭斗、手前共、丁寧に執行、跡片付共、元飾の如くなし置べき事。

第十一條

手前の始終、水屋棚廻り、飾方如法、不取落樣可致事。

第十二條

風爐の節は、足袋無用の事。

但し婦人は四季とも足袋をはくべき事。

第十三條

老若とも、耻辱を捨て、稽古あるべき事。

第十四條

勝手口總て襖障子の明建、着座の上、可取計事。

第十五條

道の問事幾ヶ條にても遠慮なく可被申出事

第十六條

出席の方々稽古並に尋問とも、互に心を入れ、見聞可致事。

第十七條

他流の規矩取尋候儀、並に誹咄等、可禁事。

第十八條

茶の湯の往來に、不作法なき樣、常に主客の心得可磨事。

第十九條

傳授の問事は、席中に未傳の人差支なき樣可有之事。

第二十條

稽古手前仕ながら問事被致候儀は、禁候事。

第廿一條

先祖以來敎示の詩歌文章の意可有會得事。

右二十一ヶ條の敎訓、相守られ稽古怠慢なく、勉勵可有之依て如件。

釜に松風の音、杓に明月の光、緑波碗の内に起ち、白氣爐上に登る。閑寂として氣息を沈むれば、天地の寂眼前にあり、粛然として茶刀を揮ふ時は、三更戞々として聲あり。氣力、腹に滿ちて一身輕ろく、百脉、妙えに調のひて律呂音なし。嗚呼、茶は古賢先英の以て樂しむ所か、豈に尋常一樣の末技にあらんや……　……

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家　庭

居候そだちの述懐

年幼なくして父母の膝下を離れ、早くより他人の中にまぢりて、居候そだちせし某と云ふものあり、或夜、春雨閑談の末につく〴〵と身の素性を語り、深く過ぎ越し方を回顧して、嗟歎禁ぜざるもの丶如く、太息して吾に談しける様は、さて〳〵吾身ながら愛想のつきたる氣質かな。世の間圓滿なる人達を見るにつけ、吾身はいかなれば斯くねぢけたりやと、漫ろに悲しさ堪へず。必竟は、餘り早く他人の間だに挾まれて、父母の温たかき御手に撫でらる丶ことの尠かゝりし故と覺るにつけ、家庭の感化の如何に強大にして、其の感化の人の一生に及ぼす影響の如何に深厚なるやを思ひ起し、今更の如く家庭の勢力の大ひなるとを知れりと言へり。此人の懺悔する所によれば、餘り早くより他人の間だに挾まれたるものは、皆な中々に鋭敏になりて、決して馬鹿は無けれど、又其の割には應揚の所は甚はだ缺けたり。何事を爲すにも、先以て利害、善惡を熟慮したる上の事とすれば、直覺直感して、一氣呵成に天眞のまゝ事を爲す趣きは絶てなし。左れば、爲す所ろ寧ろ才に傾むきやすくして、至誠已むを得ず、在のまゝに實行する自然の素朴は缺けたり。兎角、人を疑がひ、容易に信ぜず、常に邪推の眼を以て之を測量しつゝあり。馬鹿げたる所ろは、無さ過るほどに無くして、小利巧らしき所ろは、惡らしきほどに露われたり。一言するに、愛嬌なし、あるも造りたる愛嬌にして自然の愛嬌にあらず。人を引付るよりも、人を撥ね返し、人に氣を許さすよりも、人の胸襟を閉ざさする傾むきありと是れ皆な温たかき眞の父母の膝下に育だたずして、義理づくめ、理窟づくめの冷たき人の手に育てられ、朝夕、苦勞をしながら、辛ふじて人となりたる故による也。

左れば、辛捧もつよく、耐忍もあり、人に無理を言わず、愼しみも多き割合に、却つて人の左程に賞美せざるとあり。是れ何故ぞと言ふに、人は必らずしも餘りに愼しみ過ぎたる愼しみをのみ要めずして、たまには失策もあり、少しは我儘を

言ふ方の反つて心安くなりて氣をゆるすとのある故なり。人の性、あまりに圓滿に、あまりに謹愼なるものに對しては、兎角、四面四角にのみなりて面白からず、時としては心惡くくもなりて氣樂に感ぜざるものなれば、扨ては苦勞して育ちし人が、世の畏敬を受るとありとも、悅服、親愛を受るとの少なき所以、蓋しこの邊の秘密に存するとならめ、

曾て南洲先生が某を評して、彼は同衾しても何ほ懷劒を離たざる如き人物なりと言はれしとあるが、食客そだち、繼子そだち、他人そだちの、あまりに少かきよりもまれ〳〵せしものゝ末は、こゝの一點を缺くとあり。身を投げ出して反つて身安く、我儘を打明けて反つて我儘とならず、勝手なるとを言ひかけて反つて一種の愛嬌となる如きとは、かゝる育ちの人に於て見るとかたし。

嗚呼、幼けなき時は、慈愛ある兩親にあつく保護せられ、只但だ信じて世を樂しく送り、人は皆な信切なものと思ふて暮らすべきものなり。此心、土臺となりて、他日の好性質、善氣品を送り上げべきに、其の幼時、其の初代に於て、早く既に人の惡辣手段にあひ、世をからきもの、人を恐ろしきものと思ひそめて、後の一生を危懼疑惑の中に送らんとす、人間の幸不幸いかばかりぞや。而して、其の由緣の基ひは、人の手に育つか、親の手に育つか、親の手に育つとも、其家庭に混ざるものありて自由に親の愛撫を受るとを得ざりしや否やによりて亦大いに岐るとせば、家庭の風光の人の一生に及ぼす運命も亦大ならずや、云々。

あゝ此の人や、斯く自から歎くとを知れる、其の知れるとが既に病ひの兆候なり。人もし自から知らざれば、病も亦或ひは癒えんとする也。かへす〴〵も痛ましきは、幼にして親を失ひし人にぞある哉。これ誰をか責むべき、壽命か、運命か。それも及ばじ、たゞ及ぶべくして人の自から心得べきは、此の故に人々よく衛生を重んじ、躰を丈夫にして、吾が愛子の爲に丈けにても、長生をせよとは言ふ也。

目に青葉

目に青葉、山ほとゝぎす、初がつほ、口に、耳に、目に、夫々のたのしみは、四季折々に澤山あり。然しながら、青葉の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

たのしみこそ、中にも幽にして氣高きものなれ。朝たに早く東天にうつろふを見、夕べにをそく西山に映ずるをながめなどすれば、眼前到る處ろに斯くも美くしきもの丶ありしやと思はれて、坐ろに涙落ち天地の美妙に感泣せんとす。凡そ、花は、麗はしく、艶なるものに逆ひなけれど、只だ落ち易く、さめやすく、人皆の一齊に浮かれゆく花にのみ心を寄するは面白からず。何んぞ、この健全にして、色濃ゆく、豐かにして、生命多き青葉をば顧みんとはせざる。夫れ、家庭に於ても、花の如きものと、青葉の如きものとあり。たゞ花を賞づるとを知りて、青葉を好むとを知らざれば、其家庭の健全は久しからじ。世の人こゝろせずんばあるべからず。

官人悪品行の評

新聞紙は、新らしき風聞を記載するものゆゑ、其の雜報が悉く眞となりとは思はれず、況してや、此程の新聞紙風儀として、無きとすら捏造せんとするものもあれば、無論、一々信用すべき價値はなきとなり。殊には、沈默が最上の能辯にて、棄て置くとこそ反つて然るべけれ。たとひ誤聞を傳えたりとも、其の都度、辯白せんは大人氣なきとなれば、大抵は聞ずてにして差閊なきものと思はるれど、公人、官人などが斯る惡評を蒙むりたるときは、決して放置すべからず、必らずや黒白を辯明せざるべからざる也。これ即はち身一人の事に關するにあらず、實に社會公衆の名譽公安に關するを以ての故なり。

左れば、其の悪評を蒙むりたる當人にして、もし棄て置く樣の事あらんには、其の上は役たり、監督者たるもの、もしくは一汎世間の公衆たるもの則はち之を許さず、是非黒白を辯明せしむるやうに取計らふべき筈なり。苟しくも然らずして、之をしも有耶無耶の内に葬らんには、公論制裁の力次第に弱はりて、世上の廉恥、風を絶つに至らん。而も、實際の有罪者が反つて沈默を利用して巧みに辯護し、自から答へがたき故に答へずして何ぞ反つて高く標榜するともあらんとす。醜惡の尤ども甚しきものならずや。

近時、官人公人の品行、もしくは其家庭の風聞に關して、種々

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

々雜多の忌はしき新聞雜報掲載せらるゝに係らず、當の本人も恬として顧りみず、其の監督者たるべきものも、痛痒關せざる如くし、反つて冷笑を裝ほふて、巧みに自から高ふせんとするもの多くあり、不都合千萬の事ならずや。如此きは、決して寛容にあらず、責任を知らさる也、公私の別を知らずして、社會公安の神聖を悟らざる也、何の高きとか之れあらんや。

聞くならく、伊藤侯は、身一個に關するの風評に付ては、曾て辯明せしとなしとて自から誇るとかや。惟ふに、如此き誤謬の意見漸やく風を爲して、今の如く諸官人を闒茸にせしものにあらざるなき乎。伊藤侯たるもの、一私人として生存せらるゝ間は夫にて可なり、苟くも、官に立ち、公務を執り、又陛下の御信任などゝ云ふとを自から公言せらるゝと同時には決して如斯き寛大らしき僞善の所爲を許すべからざる也。伊藤侯一人の身何んぞ必らずしも惜しむに足らん、但だ其の公人とし官人としての伊藤侯は、決して侯一人の所有にはあらざる也。

此に至りて、寧ろ徳川氏時代官海の風紀の嚴肅なりしとに感服す。

今の山縣侯、官紀振肅などの宣言あり。もし眞とに其宣言を實行せられんとするときは、官人の惡風聞を冷眼に視去らず、一種の彈正委員を置いて之を調査し、もし其事あらば直ちに罰し、なくば嚴そかに惡新聞を罰すべし、如此くして初めて官紀立つべき也。

然らずして、グヅ／＼に濟まし、闒茸に聞去り、敢て寛濶を眞似て、大氣を氣取らんとすれば、所謂ゆる其の惡評の眞に實在するものと認めべきのみならず、其の惡品行者を依然として使役し、以て公徳公安を荼毒するものと見做すの外なし。此に至つては、何の官紀振肅かある。

良人の風聞につきて

霽るゝも曇るも、舟人の心つかひは一つなり。世の海を渡る人に取りては、善き風聞も、惡しき風聞も、もろともに掛念の種なるが、就中、家に留守して、良人の身の上を案ずるものに於てをや。漁夫、舟人の妻は、あまたゝび、海客をうか

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

がひてためいきす。良家士君子の閨中は、尙更の事也。
取わけて、心すべきは、良人の身に降かゝる悪風聞ある時の事なるが、かゝる際に心得置べき要件あり。
良人に落度あるは、良人自己の恥辱たるのみならず、亦た内助者たる妻其人の恥なり。左れば、妻たるものは、良人の落度と缺典とを發見するには、最初の人たらざる可らず、未だ何人の氣付かず、世が何にとも言ひ觸らさゞるうちに、先づ之を承知して、速かに改善遷轉の工夫あらしめずんばあるべからず、之れ内助者たる人の義務なり。
左れば、世の風聞を聞きて、初めて吾が良人を疑ふなどの事決してあるべからず。風聞はあとなり、自己の承知する所ろが第一ならざる可らず。
此故に、妻は、良人の落度を見出すに於て最初の人たるべく、其の悪風聞を信ずるに於て最後の人たるべし。
尙しくも然らずして、此の覺悟を顚倒し、容易に世間の悪風聞を信ずるやうにては、平生の内助の功も思ひやられて、扨〳〵淺ましきとなり。

評論

○官私二大女學校卒業式批評

善寛の子

齊藤緑雨といふ人、大坂の義太夫呂昇の一席を聽きて曰く、大坂ものは襞に面白味少なけれども、小彌義の如き下位のものまで、一躰に落付きあるは、甚だ稱すべきなりと。去る三月三十日午前女子高等師範學校に卒業式あり、午後また女子學院に同じく卒業式あり　女子高等師範と女子學院との卒業式に列して思ふは、その前者の、大坂の義太夫を聽くに似て、後者の東京の義太夫を聽くが如きことなり。高等師範の女生は、概ね艷やかなるところなくて、甚だ淡泊たるものなれども、女子學院のに至りて稍々趣味を帶びて面白味あるものゝ如し。されど、そのザワ〳〵として腰に据りなく落付きなく、眼をキョロ〳〵キョロつかせながら横向きするものあり耳語するものあり、卒業生までが何となくフワ〳〵するなど、誠に駒心地悪し。これを女子高等師範の、附屬高等女學校の生徒の末までが、端然として態度の定まれるものあり落付きの豐かなるに比すれば、誠に雲泥の差異ありといはんか。然りと雖ども、之を酷言すれば、その落付きといふは、信念にその基を措えたる生けろ落付きに非ずして、これも大坂の名物なりといふ人形芝居の如き、甚だ殺風景の落付きなるぞ是非なしや。もし此くの如くにして、師範の卒業式は、人形芝居を觀るが如しといふべくんば、女子學院の卒業式は三崎座あたりの女歌舞伎を觀るが如しといはんか。但しかゝる役者のうちなどには、「七」道具の修練に可なりの功を積みたるものありと知るべし。

○原田十吉の玄武門破の演劇

有美

邦人の熱狂を賤重する心薄き、何ぞそれ甚しく此處に至るや。かの玄武門の先登者原田十吉が、一たび俳優の扮見を受くると聞くや、天下は恰も一大事の起り出でたらんが如くに騷を立ち、十吉を以て戰偏不德の卑劣漢なるが如くに吹聽し、之な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

以て、或は軍人の体面を汚し、或は金鵄勳章を辱しむるものなりとなし、甚しきに至りては、その勳章の硃砂な其筋に勸告する無分別ものさへ生ずるに至れり。然りと雖ども、これ全く謂はれなきことにて、其愚其妄、笑ふべく悪むべきものなくんばあらず。十吉が、金鵄勳章一つ貰ひしとて、これを得意に鼻うごかめして、郷黨に誇り傲るが如きことなく、沓然として自ら世人の眈しむところに就き、俳優の職を取るに至りては、其氣其勇、寧ろ賞すべく嘆ずべきものにあらずや。戰陣に尻ひこみして、怪しき功名立てながら、軍談まがひにオマケ澤山の手柄ばなしする將軍は、是れ帝國の光榮にして、自らの經歷を劇に演ぜんとする十吉は、何故しかく輕ずべく貶むべきものなる乎。凡俗の世を過まる、蓋し之より大なるはなし。十吉は其經歷を演ずるなり、感慨自ら之れに籠り、神氣の活如たるものなくんばあらず、世の俳優が疊の上の水練の如くに、模倣これたゞ力むるの比に非るなり。その觀る者をして、感激せしむる所あるや必せり。もし此の如くして、金鵄勳章の拜受領者は、遂にその戰場の閲歷を美術化することを能はずとせば、これより情緒痛切なる戰詩の如きも全く失れ跡なきに至らんかな。蓋し戰記或ば戰詩の美術化せるを出版してその原稿料を收め、之れを天下に公にするは、軍人の体面を傷め、恩賜の勳章を辱むることなればなり。地上の五大陸廣しと雖ども、豈に大日本帝國を措いて、その他に此る馬鹿〳〵しき邦あらんや。演劇も亦美術の一科にて、しかも最もよく其進歩發達せるものなるを。我れは十吉を讃して世の藝術を重んずる心薄き凡俗の輕薄なるに憤らんかな。

○市川染五郎と市村家橘　　同

天下に觀て胸悪るきほどの思ひあるは、市村家橘といふ役者なりけり。されど、その人氣の華々しくして、馬鹿らしきまでに舞臺面の景氣よきも、また是の役者なりけり。東京座の四月狂言に、己れは織田三七信孝となり、雀三郎猿之丞などの俳優を取手の中に、九女八を仲居の中に、各十把一とからげの連中にぶち込み、殊には九女八始め仲居の面々に、「一六ら」の印し染め出せる揃ひの衣物着せるなど、如何に金力によるとはいえ、言語同斷の暴状にて、獨舞臺の花を持たんとする面にくさ、譬へんに物なし。しかも其技量に至りては、拙の最も拙なるものにて、活火なく生氣なく、音羽屋流の巧緻をだに有せざるなり。今の社會が、此る俳優に喝采するは、眞に芝居道の墮落を意味するものなり。悲しまざるべけんや。かの市川染五郎の如きも、一たびは今の家橘の如く、一時の人氣をその周邊に集めしものなり。されど、この時に當りてや、その技の賞すべきものなく、たゞ花やかなるに止りしが、近頃、社會の人氣が、この人を離れて家橘に遷るや、却て藝道の修行一段の光彩を發輝し來りて、かの歌舞伎坐に北條仲時を扮せし頃より、益々生氣と活動とを會得するを得て、今や昔の染五郎にあらず、誠に名題役者中の錚々たるものたるに至れり。近時の演劇界恐らくは、この染五郎の如く、しかくその技術に長足の進歩をなせるはあらざるべし。しかも、これ人氣の、この人を離れて家橘に遷れるの賜物なり。

○青年の福音　　慷　歎　子

嗚呼、「青年之福音」、何んど美名を冒して、極不善の事を爲せしや。其文、文に拘つろひて誠意少なく、其調、淫卑にして、慷慨の氣なし。抑そも、何等の思情ありて而して之を敢てせしと言ふか。吾等は殆んど其の狂に近きを奇しまざるを得ず。嗚呼、「青年の福音」。汝は一大汚點を遺せり、福音の名に於て害を與ふるをも亦甚大なり。

寄　書

教育の普及は國家の大患なり

小川桃花

消費は人生の一大意義也、蓋し消費なくして生存あるを得ざれば也。

生產は人生の一大意業也、蓋し生產なくして消費あるを得ざれば也。

勞働は人生の一大義也、蓋し勞働なくして生產あるを得ざれば也。

夫れ國家は野獸の狀態より脫したる人類の集合團にして、其存在の理由は平和を永遠に擔保し、人類をして其生存の目的を遂せしむるにあり、然らば國家の天職とは平和を擔保するをにして、之が爲めに有する善良なる方法を探究し且つ平和を妨害する總ての事物を撲滅するとにあらざるべからず。凡そ平和を妨害するもの不足より甚しきはなし。古來騷亂は多く不足に起りて平和は多く充足に維持せられたり。偶々一種の變想にて現はれて起る所の騷亂なきに非ずと雖も、これ恐く數十世紀の昔人類が野獸と去ると遠からざるの時代に於てのみ之あるべきの現象にして文明の進步は不足以外の騷亂を絕無ならしむに難からざるべきなり。是に於てか我輩は信ず、充足は國家の目的にして亦人生の意義目的たらざるべからずと。故を以て國家が經營する百般の施設は皆充足の爲たらざるべからざるなり。

我輩は此見地よりして現今の所謂教育の普及を憂ふるものなり、識者皆教育の普及せざるを憂ふる中に特に我輩は之が普及を恐るゝものなり。

抑々現今の教育は亂世の教育に非ずや、平和を攪亂せんとするの教育に非ずや。

所謂忠臣所謂愛國者、所謂偉大なる人物を作らんとするの教育は亂世の教育に非ずして何ぞ。蓋し忠臣や、愛國者や、所謂英雄やは昔治平の社會には要なきものなれば也。

圓滿の社會は甚しき凸凹を厭ふ。否眞に圓滿なる社會は全然凸凹を容れず。平和の社會が要求せる所の人類は平凡なる人類なり、人以上の人、人以下の人には非ざるなり。而して現今の教育は平凡なる人となるは人生の屈辱なりと教ふ。是れ平和を攪亂するの教育に非ずして何ぞ。

更に勞働は耻辱なりとする教育は國家を枯死せしめんとするの教育なり。近時人數々「勞働神聖」の語を口にすれども、これ寧ろ讀書子机上の言のみ。我輩が嘗て勞働者の境遇にありし聊かの經驗に據れば多くの勞働者は教育なきが故に止を得ず、勞働するものにして、消費は人生の意義たるが故に生產は人生の意義にして生產は人生の意義たるが故に勞働は人生の意義たりとの高尙なる見地より安じて勞働するものゝ如きは我輩は絕無なりと斷言するに憚らざるなり。故を以て教育の勞働社會に普及せざるは國家の慶事たる婚禮の比に非ざるなり、若し夫れ彼輩にして一朝現今の賢明なる教育者に教育せられて人苟も忠臣ならずして勞働するが如き、英雄ならずして凡人たるが如きの屈辱なるを知らば恐くは羽翼既に成れる雛鳥の巢に安する能はざるが如く競ふて勞働界を飛び出すべければなり。此に至て國家は干物となりて前代未聞の輸出品とならざるべからず。豈寒心の至りならずや。

我輩は神經過敏の悲觀家なるやも知れずと雖も此の如き見地より現代の教育を否定するものなり、特に尙武教育を否定するものなり。全國皆兵と稱して小學の兒童に悉く木銃を擔がしめんとするが如き馬鹿々々しき教育を否定するものなり。全國皆兵にして一端緩急ありて國民悉く銃を擔はゞ如何。我輩淺學にして目ざしの調練なるものを聞けども干物軍隊の武勇談なるものを知らず。

大忠臣にして大愛國家なる教育家諸氏よ、卿等が卒業式每に玩具として開閉する卷物の何れの處に卿等の弟子が我輩に答ふる如き事を書き在るや。試みに卿等

の弟子を捕へて何が故に物を學ぶかと問へ。其九分九厘迄は我は平凡一市民として神を敬ひ人を愛し業を勵み生を樂んで妻子と共に愉快なる生涯を送らんとは答へざるべし。否斯くあらんを希るやと彼等に問はゞ彼等は男子の面目を侮辱するものなりと憤慨すべし。これ卿等が赤誠以て此思想を鼓吹せるの功なり。卿等の滿悦する所にして我輩の痛嘆する所なり。特に英雄を作らんと多く英雄傳を讀ましめて兒童の幼稚なる空想を躍らしめんとするに至ては寧ろ滑稽の極と云ふべし。時賢明なる教育家は英雄を以て芋や大根の如く勝手に自由に作り得るものと信ぜらるゝにや。然れども我輩頑愚にして信ず英雄は天の特に之を降すの必要あるにのみ誰にも製作せられざるも驀然として暗中より躍出するものなりと、故を以て斷す英雄を作らんとするの教育は失敗の教育なりと。此の如き教育に努力するものは沙上に家を建つるものにして無意義徒勞の設爲たるを免れず。國家にして若し此愚を敢てせんとするか我輩は之を猿芝居の國家と稱す。

我輩の抱懐素より茲に盡きず。今は唯だ現在の教育主義は國家が存在の目的と背馳するものにして、其普及は國家自身を殺すの刄となるを憂ひて之を否定せるのみ。如何に教育方針を革新せんかは他日更に愚見を陳せんか。

隨感

○樂して天地

春は、何れのこゝろより花を展き、夏は、何れの貯はえより豐けき裝ほひを重ぬるやらん。紅華青葉のうつくしきに見とれて茫然として立つて徘徊する時、人は如何なれば斯る恩賜に出で合ひて、四季其折々の樂しみを享くるを得ると、座ろ、感涙に湛えて胸ふたがる。何人の子ぞ、妄りに天道の是か非かを問ふ、天道斯の如く美なり、天道斯の如く仁なり。汝もし徒らに有爲の覊に縛さるるとなく、超然として心を物外に馳せ、而して後ち混然として物内に玄同せば、天地微笑、万象歡こび迎えて、人生の趣味極まりなきとを知らん哉。汝、憂ひあるものよ、朝夙とに起きて、初夏の旭日の如何に若々しく、木躍り、鳥飛んで、いかに之に贊美するかを見よ。汝もし一日の勞苦の益なきかに思ひ屈せば、西山の夕日いと安らかに落ち、紅雲の寂靜かに曳かれ、人間役々たる事

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

業の外に、別に大天地の閑寂たるものあるを覺らん哉。

○やせたる我

つれなき人の心にわくがれ、やるせなき我が思ひに瘠せて、三更、樹下の月をながめ、短堤にゆく水のはかなきをかこつ。此心、戀人を思ふも、國家を思ふも、同じに相似たり。花に月に放浪して、其の美に吸われんも、無爲、無事にして、物の妙に遊ばんも、亦以て、人に戀ひし、國に事ふの情、枯れたりと言ふことなかれ。人間濃情の輩、安くんぞ邦家の同胞を忘るることを得んや。たゞ〳〵至誠我を動かして已むことを得ず起たんの日迄で、乞ふ吾に敷島の道を許して、花下に行吟するの暇を賜へとは言ふなり。海舟先生、維新の後一年、左の歌あり。傑士胸中の多恨亦た察すべきなり。

何すとて　やつれし君ぞ　あはれその　思ひたわみて
いたづらに　我世を經めや　あまのはら　ふりさけ見つゝ
あらかねの　土ふみたてて　ますら雄の　心ふりおこし
清き名を　天にひゞかし　かくはしき　そのいさをしを
天地の　いや遠なかく　聞く人の　かたみにせむと
我はもよ　おもひたこます　おほろかに　此世を經むと
おもやつれども

○偏狹の趣味

カーライルが英雄拜崇論を著はせしは、其頃ろ人の心單調に僻し易く、人物に對する理想の偏狹究屈なるに慣ふりての事なりける。わが國近時の傾向も之に似たり。學藝と云ふことの趣味のいかにも偏せるゆえ、人の品格に對する敬意も自から狹まし。例えんに、文明と云ふとの意義を味わふ族、存外に多からず。開化と云へる言語に、下に盤習の存する趣意を忘れ、只だ〳〵西洋風にのみ醉はんとするなり。國家の最と大きなると、人の好みの多邊多角なることに氣付かねば、工藝、美術、遊伎、宗門なんどに、一々人の生涯を費やすに價ひせる秘義あることを辨まえず、只管らに政治と、軍さと、役人と、富むことなんどの外に、人の誇りはなきものと思へることそ、淺ましけれ。

○開　化

舊家豪族の人には、立身出世と云ふことを氣にとめるものすくなし。初より立身出世して珍らしからねばなり。國家の開化

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を誇るは、舊き國にあらず。やう〳〵卵より孵え出で、まだ殻片の少々殘り居ればこそ、力めて開化々々とは言ふとにて、僅かに蠻風、未開化の境界より脱したるとを悦こぶゆえにてあるなれ。

○無宗教の宗教

道形られて德となる、德は既に末なり。宗教と名づけて、一門を開きたる、亦如此し、豈に其の玄始ならんや。況してや更に派を分ちて、いよ〳〵其末に拘つろはんとするものをや。大凡そ、可云ゆる宗教を修めんと欲するものは、釋迦微笑の所、大救主耶蘇獨り森林に祈禱せらるる祈りの御心を窺がはずんばある可らず。昔し老聃曰く、大道廢れて仁義ありと。蓋し、信念衰ろえて而して後ち宗教あるの意義なり。

○宗教改革

戒律は慈善の爲めに設けられ、信仰箇條は確信の爲に定めらる。而も、時あつてか、元旨を失なふものとなる。此に於て宗教の改革あり。古と今と何のかわりあらんや。

時事

○御慶事

五月十日の御慶事。この御慶事の三字はいかに縦々に人の心にひゞきけるかな。或人は之によりて政海の動搖をしづめ、又或人は之によりて奇しき申開きの種とはなしける。夫すら心よからぬはざさ覺えしに、扨て爾よ其日となりて世の新聞紙が之れを奉祝する辭を讀むに、大抵一つの理由をつくりて、之が爲めに祝せんとすることゝ、いかにも心得ぬと哉。御父、御祖の慶事を祝するに何事か理屈ありや。夫れ、かゝるとは、何の譯もなく、何の理由もなくて、たゞ〳〵うれしきが人の眞情なるべしとは思はるものを。

◎東宮女官　　議に御慶事御用掛となり、又妃殿下に奉侍することとなりし女官の方々は、典侍相當にて萬里小路幸子（舊青山女官）、掌侍相當吉見光子（同上）、正親町某（新採用）、命婦相當にて生源寺政子、富田鎌子（兩氏とも舊青山女官）等なりとぞ。

◎女子高等師範學校入學試驗　　同試驗は來る六月二十日より執行する由にて其日割時間は左の如し

體格檢査	六月二十日午前八時より
國語文法解釋	同廿一日午前八時より同十時まで
國語作文	同十時より十二時まで
歷史	同廿二日午前八時より
地理	同廿三日八時より十時まで

◎新女學　　水戸の高等女學校は本月九日入學式を舉行す入學者百廿名○去十一日越後中頸城郡々會にて高田高等女學校設立の決議を爲したり○高等女學校程度の講習會來月初旬より神田一ッ橋教育學校内にて開會せらる

●女子同情會の設立　　女子同情會なるもの起り築地三丁目十五番地同氣倶樂部内に事務所を設け左の趣旨書を發表せり發起者は同氣倶樂部、中央風俗改良會員の夫人令孃達なり

凡そ罪惡は貧困より起るもの多し而て近時文明の進歩に伴ひ富者の増加と共に貧者も亦増加し貧富の懸隔漸く甚だしくして社會階級の軋轢將に日を逐ふて劇

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

しからんとす故に罪惡を除き公安を保ち以て社會を改善せんと欲せば必ず先づ貧民の減滅を圖らざるべからず且世間憐むべきもの鮮からずと雖も貧民の窮厄に陷るより酷だしきはなし飽食暖衣のもの豈之を袖手傍觀して可ならんや輓近慈善事業の漸く都鄙に興る亦偶然にあらざるなり蓋し慈善事業は人自ら之を興し之を行ふ固より可而て之を助けて以て其興立隆盛を能かす亦甚だ可なり當會は即ち同情の婦女相提携し貧民の減滅に補益ある世上の慈善事業を勸奬し以て聊か社會に對し盡す所ある事を目的とす是當會設立の第一要旨なり

今や我國上下一般風俗極めて醜陋にして殆ど觀るに堪ざるものあり苟も衣食足るものは其改良を計り以て進運に補ふ所なかるべからず當會は乃同情の婦女相共同し容飾、飲食、居住、慶弔、饗讌等に於ける流弊を矯正し善良の風俗を作爲せんことを目的とす此當會設立の第二要旨なり我國婦女の習俗たる平素人と相交る等なり是を以て智見自ら偏狹を免かれず同情の婦女相交り互に交情を温むるの道を開くは唯に智見を擴むるのみならず第一第二の目的を達するに於て補益鮮からざるなり然りといへども其相交るや徒に服裝を飾り飲食を共にし單に娛樂に耽るが如きは宜く共に之を戒むべし殊に物品を贈答し互に華美珍奇を競ふは弊風の最も甚だしきものとす須く相戒めて此弊に陷らざるを期せざるべからず當會は乃ち同情の婦女相約し專ら質素を旨とし清雅なる交際を盛めて互に得る所あらん事を目的とす是れ當會設立の第三要旨なり世上生計の稍能く節約を努めば即ち一日一錢の貯蓄を省くの餘地あり且つ前記目的を賛同するの淑女は舉て當會に加入せられんことを切望すと云ふ

● 遞信者の女子雇員採用 　從話交換手の女子に適當なる職業なることは今更いふまでもなき事ながら遞信省にては現業事務即ち發着捺印、書留小包の引受發送、切手賣下の如きも女子に適當なる職業なりとし過般の一等郵便電信局長會議に於ても女子採用の件を決したるがいよいよ本年十月より左の條項によりて實行する事に内定したりといふ

一、女子雇員は滿十五年以上三十年以下の未婚の女子たる事

一、女子雇員の採用は別に定むる規則により其定員内に於て當該郵便電信局長之を專行す

一、各局に採用する女子雇員の定員は一等郵便電信局長之を定む

一、女子雇員は品行方正にして家事に累繋なく二年以上の在職を約するものより採用す

一、女子雇員の服務及俸給は遞信大臣之を定む

一、女子雇員の服務は男子と區別し二人以上の雇員ある局に在ては上務者に其監督を命ずる事

ミルの家庭教育	讀賣新聞(四、十六)
家庭教育の必要に付て(下田歌子)	同　(四、三十)
婚姻の禮儀(科斗庵主人)	國民新聞(五、十二)
婚禮の沿革	時事新報(五、十)
男女同等(福澤一太郎)	同　(同)
文明世界に於る雌雄淘汰(雨城)	日本人(一一四號)
面白き兒童研究	明義(第二號)
男女同權は野蠻の遺風あり	日本主義(四十六號)
澎湖島の結婚式	人民(三、十)
池坊大葬會	讀賣新聞(三、十三、四)
片岡健吉氏補佐秘書かゝみ草	讀賣新聞(三、十三)
同　家庭談	同　(三、十)
税所敦子刀自を憶ふ(池袋清風)	國民新聞(三、十五、十六)
女の歩きやう	二六新報(三、十八、三、十八廿二、廿三、廿七)
才媛美談(上杉東子、同琉子、黑田信子、鷹司房子、四條馬子、同章子、大河内桂子)	千代田日報(連載)
三輪田眞佐子女史が家塾	讀賣新聞(三、廿五)
女子教育(高尙を要せず)	憲政新聞(三、廿八)
女子の天職(寺田勇吉)	千代田日報(三、廿八)
花柳界の革命近きにあり	東京朝日新聞(三、十七)
今日の婦人は新聞記者に適するか	讀賣新聞(三、十二)
料理法を學ばしむべし	みやこ新聞(三、二十)
女學校總まくり	報知新聞(三、十七)
家庭改良(三好退藏)	讀賣新聞(三、廿三)
非下女主義(能勢榮氏)	万朝報(三、廿三)
挿花の大宗匠に物申さん(雪月庵)	讀賣新聞(三、廿二)
小兒の觀察(ふきしく)	大坂毎日新聞(三、廿七以后)
土方伯同夫人	中央新聞(三、十九)
婦人慘死す	下野新聞(三、十七)
日本婦人の頭髪	讀賣新聞(三、十九)
家庭の教につきて	同　(三、廿六)
何故に鉛白を禁ぜざる	時事新報(四、十九)
西村重樹翁が家庭談	讀賣新聞(四、廿五)
婦人の注意すべき裁判	二六新報(四、二十二)
水戸の妖魔窟(裁縫學校)	万朝報(四、十七)
婦人共立育兒會	毎日新聞(四、廿一)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〇本書儀出版以來非常の好評を得て忽ち三版も賣切れと相成今回訂正第四版を發行致し特別に女服改良袴足袋股引腹掛脚作等裁縫方詳細圖解一覽表を添ゆ　正價金五拾錢

天下無二　内務省版權登録證第二一七五號

▲東京有名裁縫師野口金三郎著

和服裁縫口傳書 全

特別 大割引金四拾錢 郵税四錢

●爲替は取手郵券代用二割増し

本書は袷羽織袷布東コート振袖留袖三枚着ひよく其外何品に限らず苟も和服の裁縫に係る事は一切洩さず税り方縫方等數百種を如何なる初心の人にも極めて解し易き樣圖解を入れ恰も手を取て教ると同樣に記載せり呉服業には尤も大利益あり又御婦人方には大便利なる良書なり

附録 義太夫肩衣御祭り立附新形古形女合羽子供合羽等裁方縫方詳細の圖解一覽表

洋服裁縫法 フロックコート、ツボン、シャツ、チョツキ、裁方詳細圖解(傳)

◉發行所 茨城縣北相馬郡取手町

●和服裁縫術速成教授專門 野口裁縫教授所

青柳有美作

戀愛文學 近刊

（附録）美術論數篇 裸躰畫其他美的寫眞版入

●戀愛と婦人の眞相を知らんとする人は讀め

●男に誑されたりと言ふ女は讀め

●女に欺かれたりと思ふ男は讀め

●戀に惱めるものも又讀め

●此書は魔書なり不健全なり不道德也

●此書は世を騷がさんとする青柳有美の處女作なり

發行所 春陽堂

在文科大學 海門著

三島通庸

通庸肖像、自筆の歌、大久保利通公書簡、外に銅版四枚、菊版洋裝美本、全一冊定價郵税共四拾錢

○帝國文學評、筆端颯爽、よく通庸の眞面目を捕捉するに足れり、

○日本主義評、斯る新著の種々現出して世態を矯め、讀書社會を裨益する所あらん事を望む、

○運動界評、行文流麗にして又悲壯、三嘆して卷を措かざるものあり、

○經濟雜誌評、福島事件、保安條例實施等の内情に於て、世間に知られざる者を記載せる者多し頗る趣味ある書なり、

發行所 東京牛込區市ケ谷砂土原町一丁目一番地 洗心書院

取次所 東京市小石川區大塚坂下町 密嚴教報社

主筆長井金風

人文

人文は墮落の國風也暗黑の哲學也凡そ人間在る所大僞惡醜の大機關也

或は善く讀む者あり云く其意彼に在りて此に在らざ……慾天の福音苦海の慈悼人生腐敗墮落其心薄倖矛盾顚倒可悲可憤堪笑堪哭もの大抵忌諱せず恣意冥捜臟目進を成す粗又精を成し近遠を遺さず實事の小說よりも痛奇なるものあり人情虛幻淺淡消消隨地江河尺幅の間滔滔萬丈

其事を叙すれば博奕偷盗其境を描けば酒肆淫房威榮は之が理想也僞善は之が天性也淫慾は之が生命也是故に魚龍游戲光怪陸離入ること久しうして始めて得へし尋常家及ぶところに非らず而も亦人文の一面は光明の道也政治經濟文學宗教各種の賢豪各種の意見を紹介す旨深く語勢老筆粉披

人文は又庶民の爲にする親切徹困也交詢の一欄を設け法律經濟上大小の質問に應す

人文は又業因の此の如く除き難く身世の此の如く苦痛なるを見血性の發する所大疑大哀の已むを得ざるを知り江湖苦行淸修の志士に同感する痛切也黄葉止啼言情欵欵感情俱に存し意長く神遠し聽者をして油油善く入らしむ

約して云へば人文は修辭宏渺たる紹入雜誌にして現在人文現象の不調和不消化を冷笑熱罵したるものなり

毎月二回發行 壹部定價郵税共金六錢半年前金七拾錢壹年前金壹圓參拾錢(爲替駒込支局宛)

第壹號五月廿五日、次號六月十日發行

東京本郷區追分町三十番地

人文社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY